いわた
文化財だより 第184号
磐田市教育委員会教育部文化財課　令和２年７月１日発行

目　次

■ただいま整理作業中！甑塚古墳　・・・・　P1～2
■文化財課企画展&特別講座　情報　・・・・・　P3
■８～９月実施の指定無形民俗文化財の開催中止等について　・　P4
■コラム『掛川市の豪商・山崎家と男爵・赤松則良の夢』木村弘之　P4

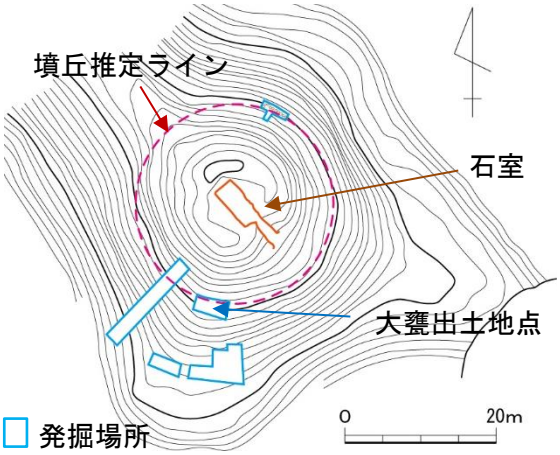
ただいま整理作業中！甑塚古墳（こしきづか）

文化財課では、遺跡の発掘調査で出土した資料や記録の整理作業もおこなっています。今月号では、甑塚古墳の整理作業について紹介します。

甑塚古墳とは？

甑塚古墳は、磐田市岩井、桶ヶ谷沼（おけがやぬま）近くの磐田原台地東縁にある直径約 26mの円墳です。今から 60 年前の昭和 34 年（1959）、国鉄の鉄塔建設工事が行われた際に石室（せきしつ）が露出し、土器が出土したことから、石室の緊急発掘調査がおこなわれました。その後、昭和 40 年（1965）にも墳丘の発掘調査や測量がおこなわれました。

甑塚古墳は、古墳時代後期にあたる６世紀初め頃に市内で最初に横穴式石室（よこあなしき）を採用した古墳です。石室内には石棺（せっかん）が置かれ、その内外から多数の土器や金属製品が出土したほか、埴輪（はにわ）も出土しました。市内で石棺があった古墳はここだけで、石室内から埴輪が出土したのは全国的にも大変珍しい例です。また、金属製品には金銅装（こんどうそう）（銅に金メッキを施したもの）の馬具（ばぐ）などがあり、当時の県西部地方で最も有力な首長の墓と考えられています。



甑塚古墳測量図（昭和 40 年）

甑塚古墳の石室と石棺（昭和 34 年）
柱状のものは鉄塔の基礎

石棺の近くから出土した埴輪（昭和 34 年）

なぜ今整理作業？

調査報告書を刊行することで、遺跡を記録に残し、多くの人にその遺跡の内容を周知して、歴史を研究する資料となります。しかし、甑塚古墳とその出土品は、東海地方の古墳時代を語る上で大切な資料ですが、当時は開発に伴う発掘調査の体制が整っていなかったこと、発掘担当者が亡くなったことなどから、正式な調査報告書が刊行されていません。文化財課では、当時の関係者や、県内の古墳の研究者の協力を得ながら、刊行に向けて整理作業を進めています。

令和元年度は、発掘調査に参加した方に集まっていただき、当時の様子を伺ったほか、関係者から聞き取り調査を行いました。この結果、当時は発掘調査が珍しかったこともあり、市民や小・中学生、高校生などが多数見学に来たこと、日本を代表する古墳の研究者らも現地を訪れていたことがわかりました。

発掘調査を見学する生徒（左上と中央右が見学する生徒）

今年度の内容は？

今年度は、保存処理（劣化を防ぐための化学的な処理）がおこなわれていない一部の金属製品の処理を専門業者に委託して実施します。また、大甕などの実測や、埴輪の接合作業などをおこないます。大甕は墳丘の裾からバラバラの破片で出土し、それらを接合・復元したものです。

調査報告書ができるまでには、まだ数年かかる見込みです。その過程で新たな発見があるかもしれません。お楽しみにしていてください。

上：大甕が出土したときの様子
（昭和 40 年）
右：破片を接合して復元された大甕

甑塚古墳がある場所とその周囲は民有地です。見学はご遠慮ください。

文化財課企画展&特別講座　情報

今年も、磐田市立中央図書館で、企画展を開催します。企画展の日程、特別講座を紹介します。

●文化財課企画展
「弥生時代へＧＯ！　～2000 年前のイワタ～」

とき：８月１日（土）～８月 30 日（日）
午前９時～午後６時（土・日は午後５時まで）
（月曜日、８月 28 日（金）休館）
土・日は文化財課職員が解説します
ところ：磐田市立中央図書館展示室（見付 3599-5）

内容：今年磐田市は、平成の市町村合併から 15 周年目にあたります。この節目の年に、磐田市の原点をさぐることを目的として、現代日本社会の基盤である水田での米作りが開始された弥生時代の市内の様相を紹介します。今回は、新平山遺跡（下野部）の竪穴住居から出土した石製紡錘車（ぼうすいしゃ）（※）を初公開します。中には、絵が刻まれたものも見られます。鳥形土器を含む弥生土器などとともに、弥生人の造形美をお楽しみください。

（※）糸をつむぐ時に使う道具

詳しいみどころは、来月号の文化財だよりで紹介します！

一本鋤（すき）

紡錘車

鳥形土器

銅鐸（どうたく）

●特別講座『ここまでわかったイワタの弥生時代』

とき：８月９日（日）午後２時から
ところ：磐田市立中央図書館視聴覚ホール
内容：市内の弥生時代遺跡の発掘調査を担当した市文化財課職員が、スライドなどをまじえながら、磐田の弥生時代についてわかりやすく紹介します。方形周溝墓群が見つかった神明山遺跡（鎌田）や磐田原台地上の集落全体を発掘した谷田南遺跡（向笠竹之内）など近年大規模に調査した遺跡についても説明します。
講師：市文化財課職員

谷田南遺跡（空撮 斜め南から）
▪▪▪▪▪▪▪▪ 発掘調査箇所

定員：申込先着 40 人（感染症対策のため、スペースを空けて座っていただきます）
参加費：無料
申込み：電話で文化財課へ　７月 21 日（火）から受付開始

問合せ・講座申込み
磐田市教育委員会　文化財課　TEL0538-32-9699（平日８時 30 分～17 時）

８～９月実施の指定無形民俗文化財の開催中止等について

感染症拡散防止のため、8～9月実施の指定無形民俗文化財は、以下の通り中止、または非公開でおこないます。ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。（7月1日現在）
詳細は各行事保存団体にご確認ください。

●中止

池田やかた祭り、加茂大念仏、豊岡の遠州大念仏（大平組、大楽地組、合代島組、壱貫地組、三家組、松之木嶋組、上神増組）

●神事のみ非公開で開催（見学はご遠慮ください）

見付天神裸祭

市ＨＰでは、民俗文化財を記録した映像を公開中です。

映像を収めたDVDは市内の図書館でお借りいただけます。

職員リレーコラム

掛川市の豪商・山崎家と男爵・赤松則良（のりよし）の夢

木村　弘之

本年は、郷土の偉人「男爵・赤松則良」の没後100年に当たります。これに合わせ旧赤松家記念館では没後100年記念企画展「男爵・赤松則良を巡る人々」を、中央図書館２階視聴覚ホールでは記念講演会を９月に開催します。

さて、私は、図書館勤務時代に赤松文庫管理を担当したことを機に赤松則良の事歴をたどって早８年が経ちます。その間に表題の「掛川市の豪商・山崎家」が赤松家と関わりがあることがわかり、さらに興味を抱きました。合併前の２年間、掛川市へ出向していた折、この山崎家長屋門の保存業務に携わっており、なんとも奇遇でした。

赤松則良は明治時代の初め、叔父・宮崎泰道と共に磐田原を開墾し、大茶園を築いたことで知られています。これには、遠州人の豪商・豪農たちの助力が必要でした。当時、磐南地域の有力者であった青山宙平を介して、遠州茶業界で大きな力を持っていた掛川の豪商・山崎千三郎との関係を作ります。そして、明治14（1881）年７月に則良は、掛塚湊の廻船問屋・林文吉と会っています（「則良日記」）。と同時に、文吉は海軍省へ船の運航に必要となる「船旗届」を出願しています。

山崎家長屋門

このことから私は、則良が「磐田」で生産したお茶を広く流通させる夢を描いていたのではないかと考えています。則良を巡る人々について詳しくは、記念企画展をお楽しみに！　※「船旗届」…当時、船の運航には海軍省の許可を得た船旗（船にたてる旗）を決める必要があった。

編集後記　今年の企画展は弥生時代がテーマです。弥生時代といえば…お米作り？弥生土器？企画展のみどころを来月号で特集しますので、ぜひご覧ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田市 文化財だより 検索